

## 加東市監査委員公表第3号

地方自治法（昭和22年法律第67号）第199条第1項及び第4項の規定に基づき実施した令和6年度定期監査（2月期）の結果について、同条第9項の規定により、ここに公表する。

令和7年4月24日

加東市監査委員 壺 井 弘 次

加東市監査委員 田 中 正 紀

加東市監査委員 神 田 耕 司

# 令和6年度定期監査（2月期）結果及び意見

## 総括

地方自治法（昭和22年法律第67号）第199条第1項及び第4項の規定に基づき、令和7年2月25日において令和6年度2月期（令和6年4月1日から令和7年1月31日まで）における、加東みらいこども園及び滝野中学校の事務事業の執行について、同法第2条第14項及び第15項の規定する趣旨により合理的かつ適正に運営されているかに留意し、監査を実施した。

今回の監査は、特に次の5点に重点をおいた。

- (1) 事務事業が計画的に進められているかどうか。
- (2) 事務事業が常に住民福祉の向上を目指して進められているかどうか。
- (3) 人的配置は、適正に行われているかどうか。
- (4) 不経済な支出が行われていないかどうか。
- (5) 備品管理は、適正に行われているかどうか。

この結果、事務事業の執行については適正に処理され、令和6年度2月期においては所期の成果を上げている。

以下、対象所管ごとに記述するが、口頭による指導事項、平素の事務処理の状況等、特に記述すべき必要がないものについては省略する。

## 【加東みらいこども園】

### 1 監査の結果

加東みらいこども園は、「心身共にたくましい人間力の基礎作り」を教育・保育理念に、園児の健全な育成を図るとともに、保護者のニーズに応えるため、特別保育（延長保育・一時預かり・休日保育・障害児等保育）を実施している。

職員は、保育教諭（園長、副園長を含む）15人、調理員2人、フルタイム会計年度任用職員18人、パートタイム会計年度任用職員22人の合計57人である。

当園の定員は250人で、内訳は教育標準認定（1号認定）55人、保育短時間認定及び保育標準時間認定（2号・3号認定）195人である。令和7年1月時点における在籍児童数は次のとおりである。

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
保育園部	16	24	34	39	44	43	200
幼稚園部	—	—	0	10	9	10	29
合計	16	24	34	49	53	53	229

在籍児童数が定員に達していない要因について、前回の定期監査（令和2年度）

では人材不足が主な要因として挙げられたが、現在は4歳児・5歳児の入園希望者が減少しているなど、利用者の需要の変化が一因であると説明があった。また、0歳児が年度途中に入園するケースが増えており、令和6年度においては4月当初は3人であったが、1月末時点では16人となっている。人員配置への影響を確認したが、年度当初から園児が増えることを見込んでいたため対応できていると回答があった。

歳入歳出執行状況について、今後の支出負担行為見込額を中心に確認した。

歳入執行状況のうち、延長保育料等の特別保育事業利用料の収入状況を確認したところ、現金は原則預かった日中に市役所会計課へ納入し、月末に1か月分をまとめて調定することとしており、調定額の収入未済額との差額については、保護者による未納分であると説明があった。

歳出予算のうち、工事請負費及び委託料において、今後の支出負担行為見込額が100万円を超えるものについて、内訳を確認した。

地域子育て支援事業として、未就園児を対象とした子育て支援室「く・ね・あ」を実施しており、登録制となっている。

社地域小中一貫校の開校に合わせて、令和7年4月1日から加東みらいこども園、米田こども園及び鴨川保育園が統合することとなっている。統合後の当園の定員は288人を予定しており、内訳は教育標準認定（1号認定）45人、保育短時間認定及び保育標準時間認定（2号・3号認定）243人である。統合に向けた施設改修として、幼児棟トイレ改修工事等を実施しているが、部屋数については当施設が定員300人を想定して建築されていることから増築工事が不要であることを確認した。

## 2 意見

子育て支援室「く・ね・あ」について、現在は週に1回実施しているとのこと、子育て支援に有意義な本事業が今後実施回数を増やし、より充実したものになることを期待する。

備品管理について、備品の基準は比較的長期にわたり使用できて、1点当たりの購入価格が1万円以上のものを指すが、中には複数の備品を一括購入した場合などに1万円以下の物品が備品台帳に登録されているケースがある。事務負担軽減を図るという観点からも、1点当たりの購入価格を算出して1万円以下である場合は、金額によらず備品とするものを除き消耗品として取り扱うこと。また、廃棄や移管することを想定し、複数の備品を一括購入した場合においても、1個につき1つの備品番号を付して管理することを徹底されたい。

備品台帳には、昭和61年に取得した跳び箱や平均台、踏切板が登録されている。現物は一部確認できなかったが、現在は本来の用途としては使用していない

ものと考えられる。取得年数が古く、現在使用していないのであれば廃棄を検討されたい。また、若い園児達が使用するものであるため、物品の耐用年数と劣化による危険性を十分に確認していただきたい。

備品台帳のうち、寄贈品については市への報告を必要とし金額が把握できることを確認したので、購入金額が空欄になっている備品については記載すること。

3園の統合に伴い、環境の変化に不安を抱える園児もいると思われるのでスムーズに入園できるよう配慮をお願いしたい。また、統合によって備品も増えるため移管及び管理については十分注意していただきたい。

延長保育事業に係る記録簿、調書等を確認したところ、領収書（控え）の一部において市長名の表記誤りがあったため、作成元のデータを早急に修正されたい。

## 【滝野中学校】

### 1 監査の結果

滝野中学校は「自律：たくましくしなやかに、自ら考え行動する生徒の育成」を学校教育目標に教育活動を展開している。なお、滝野地域小中一貫校の開校を令和10年4月に予定している。

職員数は、教諭（校長、教頭を含む）18人、再任用教諭1人、養護教諭1人、臨時講師・任期付講師5人、学校統括主査1人、パートタイム会計年度任用職員13人の合計39人である。

1月末時点における生徒数は、1年生82人、2年生96人、3年生120人の計298人である。生徒数の推移を確認したところ、翌年度入学する小学6年生の児童数が多いことから、翌年も概ね横ばいの予定だと説明があった。

滝野中学校では、部活動指導員6人を雇用し、顧問（教員）1人と部活動指導員1人という体制で指導をしている。部活動指導員とは学校設置者が雇用する正規の職員で、外部指導員と異なり大会への引率等が可能である。

学校徴収金に係る現金出納簿、領収書及び預金通帳の一部を確認した。

### 2 意見

部活動指導員について、今後、部活動の充実、教職員の負担軽減へ繋がることを期待する。

学校徴収金について、現金を管理するにあたっては、担当者以外の者が容易にチェックができる体制をつくり、学校の適任者が定期的・臨時的にチェックすることが必要である。過去に現金出納簿の作成を指示したときよりも、現金を手元で管理する期間が短縮されている現状と、今回確認した証拠書類では担当者以外が確認しづらいことを鑑み、現金出納簿については今後も作成するとともに、預

金の動きを把握する出納簿についても作成を検討されたい。

備品管理について、備品の基準は比較的長期にわたり使用できて、1点当たりの購入価格が1万円以上のものを指すが、中には複数の備品を一括購入した場合などに1万円以下の物品が備品台帳に登録されているケースがある。小中一貫校開校に向けて準備を進めているとのことなので、事務負担軽減を図るという観点からも、1点当たりの購入価格を算出して1万円以下である場合は、金額によらず備品とするものを除き消耗品として取り扱うこと。また、廃棄や移管することを想定し、複数の備品を一括購入した場合においても、1個につき1つの備品番号を付して管理することを徹底されたい。

備品台帳には、昭和40～50年に取得した古い備品が登録されている。一部現物を確認できなかったものの、大半は現在使用していないとの説明を受けた。取得年数が古く、現在使用していないのであれば廃棄を検討されたい。また、特に体育用品などけがを生じるおそれがあるような備品については、物品の耐用年数と劣化による危険性を十分に確認していただきたい。

備品台帳のうち、寄贈品については市への報告を必要とし金額が把握できることを確認したので、購入金額が空欄になっている備品については記載すること。

令和10年度の滝野地域小中一貫校開校時には大量の備品を移動させることから、円滑に移管・廃棄等ができるよう早期に取り組んでいただきたい。

学校施設（体育館）の使用状況報告書及び使用一覧表と、申請書を突合したところ、ある団体において一覧表と申請書金額が異なるものがあった。確認したところ、使用状況報告書及び使用一覧表の表記誤りであったため、後日修正を行った。受付を行う学校においては正確な書類作成を行うとともに、収納事務を行う教育総務課においても書類を突合して確認していただきたい。

滝野地域小中一貫校の進捗について、本年度は学園の愛称及び制服が決定した。今後、開校に向けて準備を進めるなかで、現場の職員の声がより反映されるようお願いしたい。